

日本一長い直線道路・他

JJ1SXA/池

日本一長い直線道路ですが、距離だけで言えば、国道第12号線の「美唄市光珠内」から「滝川市新町」までの29.2kmが日本一長い直線道路となっています、当初の直線部分は、「美唄市光珠内から砂川市の空知大橋手前までの27.7kmだったが、平成2年11月の「新空知大橋」完成により直線区間が1.5km延長し、29.2kmになっています

北海道は直線道路がしやすい歴史的背景がある、主要道路の多くは、町並み形成よりも先に、つまり原野や原生林状態の土地の時代に開削されており、直線道路がしやすいという歴史的背景があったのだ。

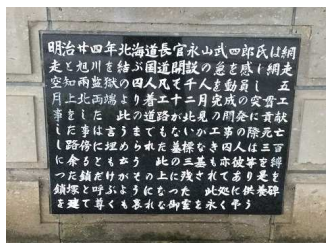
明治時代、この道路がまだ無かった時代、石狩川を船で進む方法が普通だった、そこで、旭川地方の開拓を早く進めたい北海道庁初代長官岩村通俊氏によってインフラ整備を急ぐことにしたようです。(12号線の工事時は、2代目長官永山武四郎氏)

現国道第12号線の工事の主役は、網走、空知の両監獄の囚徒達で、こうして千古斧鉞(せんこふえつ)の原始林や人跡未踏の湿地を縫って、日本の土木工事史上最も苛烈な囚人道路の工事が着工されました、夜も眠れぬほどおびただしい蚊やブヨの大群が襲来する中、熊や狼にも怯えながら、全て人力による工事が進められ、満足な食事も与えられず、劣悪な衛生環境とも相まって、怪我人や病人、果ては死人が続出したようです。(死者は、300人以上と言われ、墓標も無く路傍に埋められたり、そのまま放置されたようで、その場所に、囚人を縛っていた鎖だけが残ったようで、後に鎖塚と称した)

上川道路の工事の際に「なるべく直線道路にするように」という内容の復命書があったことで、現在の直線道路の原型ができあがったようです、石狩川のカムイコタンはとりわけ難所続きのために、現場からは、たまらずに迂回の願いが出ましたが、安村治孝典獄は頑として譲らず、ひたすら突き進めと指示を出し続け、国道12号線は元々上川道路といわれるものですが、囚人によりわずが半年強で、この直線道路は完成したとのこと。

北海道開拓にあたり、当時の権力者の考えは、「囚徒らは道徳にそむいている悪党であるから、懲罰として苦役させれば工事費が安く上がり、たとえ死んでも監獄費の節約になり、一挙両得である」と嘯っていたようです。

多くの犠牲者が出たこの道路の開道百年を記念して、1969年(昭和44年)、砂川市の空知太神社境内に、囚人の犠牲者を慰めるため、砂川市と、北海道により「上川道路開鑿記念碑」が建立された。



明治廿四年北海道長官永山武四郎氏は網走と旭川を結ぶ国道開設の急を感じ網走空知両監獄の囚人凡そ千人を動員し五月上旬北西端より着工十二月完成の突貫工事をした此の道路が北見の開発に貢献したことは言うまでもないが工事の際死亡し路傍に埋められた墓標なき囚人は三百に余るとも云う此の三基も亦彼等を縛った鎖だけがその上に残されてあり是を鎖塚と呼ぶようになった此処に供養碑を建て尊くも哀れな御霊を永く弔う

日本一長い直線道路は、29.2kmの国道第12号線とわかったが、世界に目を向けるとどうなのか、世界一長い直線道路は、約259kmのサウジアラビアの「ハイウェイ10」で、ひたすら砂漠の中を走り続けるようです、桁が違う。

2位は、オーストラリアの「エア・ハイウェイ」で、ケイグからパラドニアという地域間の約146kmが直線のように、このエア・ハイウェイは観光で訪れる人も多く、道中に野生のラクダやエミュー、カンガルーが飛び出したり、長距離運転者用のロードハウスという宿泊施設もあるそうです。

3位は、アメリカ最北部のノースダコタ州にある、「ハイウェイ46」の約57kmです、世界一長い直線道路の上位3箇所でしたが、北海道は広いと言っても、世界から見れば、ちっぽけだと痛感させられます。

またまた日本の話題に戻り、別稿「幻の街キラク」で北海道に、「この世の果て」と呼ばれる場所として、トド松の立ち枯れ林「トドわら」のある、野付半島の道を紹介しましたが、今度は、「天に続く道」として有名な道路の話です。

斜里町の峰浜から大栄地区まで続く、国道334号線（斜里国道）と国道244号線（知床国道）が重複する全長約18kmの直線道路のことで、名前の由来は、「まっすぐな道がはるか遠くまで続き、その先が天まで続いているように見える」から、とのことですが、写真を見れば、説明はいらない、TV番組、火野正平の「こころ旅」でも紹介されました。



遙か先を見晴らす絶景ルート（道路の真ん中にタワーが建っているように見える）
本当に、天に続いているようだ！

北海道には、まだまだ有名な道路が多数ありますが、その内の一つ、小樽に始まり稚内までの約380kmの海岸を走る道が「オロロンライン」と名付けられている、休憩を含め行程に約7時間を想定するドライブウェイだ。

しかし、その時間以上の見どころスポットも満載、走るだけで北海道を満喫できるという特典までついてくる道と言われる、いわば、道そのものすべてが景観スポットと言えるかもしれませんとのこと。

春の雪解けの時期は広い原野や牧草地に残る残雪の白さがまぶしいでしょうし、夏は海の碧さ空の青さと磯の香りが心に満ちて、ゆったりと心を寛がせてくれるはずで、秋は秋の風の冷たさと日本海に早々に沈む夕日は郷愁をかきたてる情景であることは間違い無いようですし、冬は、日本海の荒波は豪快そのもの、波濤まで凍り付くような北海道の冬を実感できるはずで

すと。

訪れる四季によりまったく違う顔を見せて旅人の心をひきつける景色、人情、味覚、そして、歴史、全てがオロロンラインの魅力であるといえるようです。

そして、ルートとしては北上ルートがやはり人気で、常に海側車線を走ることになりまので、波間に浮かぶ天売・焼尻の島々や利尻富士の姿を一望のもと眺めることができますとのことですが、私は、ここを走ったのは、稚内から南下のルートで夏だった、だが、日本海を眺めながらのドライブで、しっかりと北海道の魅力を満喫した。

もう一つ紹介したい道路、それは、「ジェットコースターの路」と言われる、富良野と美瑛の間にある上富良野町の「西11農線農免道」という町道で、ゆるやかなアップダウンから急降下、急上昇、正にジェットコースター、高低差が激しい直線道路です。



「農免農道」とは、「農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業」で整備された道路